



TITLE:

## (1)基研研究部員会議議事録

AUTHOR(S):

---

CITATION:

(1)基研研究部員会議議事録. 物性研究 1967, 8(2): 161-170

ISSUE DATE:

1967-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/86027>

RIGHT:

## 資 料

### (1) 基研研究部員会議議事録

1967年 2. 16～17

於 基研小講義室

議 長	中野董夫・小野 周・田中 正		
出席者	運営委員	( 17名中 )	10名
	研究部員	( 30名中 )	22名
	所 員	( 7名中 )	7名
	オブザーヴァー		2名
	研究計画提案者		9名

39名

#### 議 題

1. 議 長 団 報 告
2. 基 研 報 告
3. 新 研 究 部 員 承 認
4. 外 人 招 聘
- 研究計画に関するインフォーマル・ミーティング
5. インフォーマル・ミーティング報告
6. アトム型などの運営について
7. 研 究 計 画 決 定
8. 任期制度について
9. 国・公・私立大学間の流動について
10. 国際交流について
11. 将 来 計 画 関 係
12. そ の 他

#### 1. 議 長 団 報 告

##### (イ) 研究計画提案決定のあり方について

Informal meetingを最初に行い、予算に触れずに内容の議論をした後  
Informal meeting報告で大体の枠づけをし、個々の予算は世話人の話

## 資料 1.

し合いで案をつくる。決定の時は、報告に対して全員で検討する。

### (ロ) 祝賀パーティの件

湯川所長の還暦を祝して、研究部員会議主催のパーティを行う事になった。

17日(金) P.M.6:00 から、楽友会館にて、パーティ欠席の研究部員会議構成メンバーからも記念品代を頂く。記念品は置時計と決定(但、Jecoの音叉時計)

### (ハ) 基礎物理学研究所職員研修旅行の件

今年度5名行なった。

良い結果が得られているので今後も他の人を計画したい。

## 2. 基 研 報 告

### 人 事 (10月以降の移動のみ)

河原林 研: 11月1日付 助教授に(東大教養より)

片山 泰久: 11月1日付 京大工学部原子核工学へ

星崎 憲夫(予定): 3月1日付 京大工学部原子核工学助教授に

### アトム型

江夏 弘 (立命大・教授) 10月より6ヶ月

鳴海 元 (広大・理・教授) 10月より3ヶ月

柏村 昌安 (名大・理・助手) 11月頃 1ヶ月

田中 友安 (American Catholic Uni. 教授) 12月頃 1ヶ月

木下 紀正 (東大・理 D<sub>2</sub>) 11月半ばから1ヶ月

大貫 義郎 (名大・理・助教授) 2月, 1ヶ月

### 招聘外人

H. Haken (ジュッガルト理論物理学研究所)

G. Landaner (Institut für Plasmaphysik) 3ヶ月

K. Friedrichs (New York Univ.)

R. Phillips (stanford Univ.)

Y. B. Kim (Bell Telephon Lab.)

Lattes (サンパウロ大学教授) 3月予定

## 3. 外 人 招 聘

## 4 2 年度予定

B. Sørensen	(Nordita)	3ヶ月	…… A. Bohrの弟子
A. Bohr	(Copenhagen)	1ヶ月	} 原子核国際会議出席
H. Bethe	(Cornell)	1ヶ月	
M. Baranger	(U.C.L.A.)	1ヶ月	
A. de Shalit	(Weizmann Inst.)	1ヶ月	
C. Block	(Saclay)	1ヶ月	
N. Lane	(Harwell)	1ヶ月	
E. Wigner	(Princeton)	1ヶ月	} 宇宙線関係
B. G. Wilson	(Calgary)	3ヶ月	
W. Heisenberg	……	滞在費は不要・仁科・湯川財団援助	

(4月16日～5月15日)

B. Vitale (6ヶ月)

Laverick (ANL)(1ヶ月) 冷温国際会議(4.9～15)出席

P. T. Matthews (Imperial College)

A. T. Lea (Copenhagen Inst.)

E.H.Roffman (Princeton 高等科学研究所)

今年度は、国際会議があつて希望が多いので、全部は無理である。基研で適当にアレンジして来て頂く事にする。

## 物 性 関 係

- 43年度に統計力学の国際会議があるので願ひする。
- 4月の学会の時に中国人を招聘する可能性があつたが延期になつた。

## 京大外人宿舎の件

(事務長) 外人宿舎が完成した。

- 家族用居室(6) 夫婦用居室(6) 単身用居室(3)
- 使用料月額(光熱費含む)

家族用23,100円, 夫婦用18,900円, 独身用9,000円

使用する場合は、早目に手続きを完了したい、又、1ヶ月単位でないと、

資料 1.

滞在費の予算と結合している人は難かしい。

4. 新研究部員承認

新研究部員は次のように決定した。(任期 42. 4. 1~44. 3. 31)

素粒子論関係 (11名)(得票順)

池田清美(東大・理)	広重昇(広大・理)
丸森寿夫(九大・理)	猪木慶治(東大・理)
山本邦夫(阪大・教)	飯塚重五郎(金沢・教)
植原正行(九大・理)	西島和彦(東大・理)
藤井寛治(北大・理)	原康夫(東教大・理)
大槻昭一郎(九大・理)	

次点 井町昌弘 磯 親

物性論関係 (5名)

中島貞雄(東大・物性研)	豊沢豊(東大・物性研)
富田和久(京大・理)	守谷享(東大・物性研)
三輪浩(阪大・理)	次点 都築俊夫(九大・理)

\* 研究計画に関する Informal meeting

素粒子論関係(座長・小川)

原子核関係(座長・安野)

物性論関係(座長・芳田)

に分れて説明・討論が行われた。

5. Informal meeting 報告

42年度に予想される員等旅費	670万円
研究部員会議・運営委員会	110
自由研究費	30
研修旅費	5
アトム型奨学生的なもの	60
長期・短期	$40 + \alpha$
談話会	$10 + \beta$
計	$255 + \alpha + \beta$

を差し引くと  $415 - (\alpha + \beta)$

$$\{415 - (\alpha + \beta)\} \times \frac{2}{3} \approx 280 \text{万円} - \frac{2}{3}(\alpha + \beta)$$

となる。今回応募の旅費請求総額は676万円，校費額は141.3万円であった。

## 6. 研究計画決定

議論の末以下のように，決定した長期，短期所属も一部変更した。

研 究 会 名	世話人 <sup>or</sup> 出席者	旅 費	校 費	参加者人数 & 場所
<長期研究計画>				
1. 素粒子の模型と構造	牧 二 郎 松 本 賢 一 大 貫 義 郎	20万円		
2. 高エネルギー素粒子反応	武 田 曉 三 宅 弘 三 川 口 正 昭	15		30名
3. 宇宙線加速器領域における 素粒子物理	大 場 一 郎 長谷部 勝也 福 井 市 男 広 重 昇	15		25名
4. 核構造と弱い相互作用	藤 井 昭 彦 森 田 正 人 山 田 勝 美	17	30万円(計算①)	30名(2回)
5. 天体物理の諸問題	杉 本 大 一 郎 松 岡 勝 田 原 博 人	5		20~25 (10日間)
6. 原子核における4体相関	玉 垣 良 三 有 馬 朗 人 丸 森 寿 夫 田 中 一	13		
7. 宇宙線による素粒子の研究	藤 本 陽 一 長谷川 俊一	7	5 (アナリシス計算)	
8. 多 体 問 題 (短期に変更)	沢 田 克 郎 宗 田 敏 雄	25		

## 資料 1.

9. S 行列と対称性	原 康 夫 河 原 林 研 佐 藤 行 山 本 邦 夫	25 <sup>万円</sup>		20~30 <sup>名</sup> (2回)
10. 相 転 移	桂 重 俊 森 肇	30	10(計算C)	30~35(2回)
11. 量子統計的凝縮系	碓 井 恒 丸 中 嶋 貞 雄 石 井 力 恒 藤 敏 彦 都 築 俊 夫	10	3(印刷C)	25
<短期研究計画>				
1. 原子核における集団運動	池 田 清 美	12 <sup>万円</sup>		15 <sup>名</sup> (3日基研)
2. Non-leptonic Decay	藤 井 寛 治 古 井 伸 哉 井 本 三 夫 横 尾 田 松	15		20(基研)
3. 素粒子の時空記述	湯 川 秀 樹 高 村 武 彦 原 山 泰 久 片 山 泰 久	10		20
4. 相対論的 2 体方程式による核力の分析	室 田 敏 行	30	30(計算C) 20(賃金)	
5. Higher Resonance	益 川 敏 英 木 下 紀 江 小 林 庸 治	10		15(2回)
6. Polarized Target を用いた素粒子原子核の研究と開発	堀 川 直 顕 政 池 明 長 谷 川 武 夫 諏 訪 茂 樹	18		25(2日)
7. 量子統計的凝縮系	碓 井 恒 丸 恒 藤 敏 彦 都 築 俊 夫	10	3(印刷C)	25
8. 計算機シミュレーションによる多体問題の研究	大 林 辰 蔵 矢 島 信 男 松 田 博 嗣 高 木 修 二 長 谷 川 晃 上 田 晃 顕 萩 田 直 史	0		30

## 資料 1.

9.星の進化	林 忠 四 郎	20万円	IBM 15(計算C)	25名(5日間)
10.原子核国際会議の準備	有 馬 朗 人 宮 嶋 竜 興 堀 江 久 一 田 中 一 藤 田 純 一 野 上 茂 吉 郎 高 木 修 二 吉 田 男 朗	30		30(3日)
11.1967年核構造国際会議議 のためのサマースクール	吉 田 思 郎 上 村 正 康	0		(日光かなやホテル)
12.非周期系物性の基礎理論	松 原 武 夫 堀 淳 一 松 田 博 嗣 米 沢 富 美 子	15		30(2回基研)
<モレキュール型>				
1.秩序・無秩序現象の電子計 算機によるSimulation	上 田 顕 史 萩 田 直 史 松 原 武 夫 松 田 博 嗣	5	6.3 (磁気テープ)	理研 & 京大
2.生成高分子の $\pi$ 電子論	宮 田 隆 大 野 公 男 福 留 秀 雄 松 田 博 嗣 米 沢 富 美 子	0	5(計算C)	基 研
3.1 Gev 前後の強い相互作用 について	米 沢 穰 亘 和 太 郎 古 市 進	5	15(計算)	市大 or 広大
4.原子核の回転運動と Non-linear effect	庄 野 義 之 丸 森 寿 夫 山 村 正 俊 池 田 清 美	5		広大 or 九大
5.原子核における集団運動の 非調和項の分析		2		
計		319万円	151.3万円	

## 7. アトム型の運営について

- 41年度後半に、試験的に短期(1ヶ月)の制度を置きやってみた(16



## 資料 1.

万円)。42年度は短期・長期(3~6ヶ月)合わせて(40+ $\alpha$ )万円あれば(min.)運行できると思う。

$\alpha$  = 数万円

- 大学院学生の短期アトムが増える可能性がある。
  - \* 判断が難かしい。
  - \* もともと忙しいスタッフのために設けた制度ではないか。
  - \* 学生がしばらくよそへ行く事は、非常に有効だから、大いに利用させるべきだ。
  - \* 若い人には、費用は旅費、宿泊費位で、アシがでない程度で良い。
  - \* 場合によっては、拡大談話会に来て頂く事も考えられる。
- 入選費用については、基研所員会に任せる事になった。

## 8. 任期制度について

アンケートをとった結果、返事は研究機関7,旧所員6であった。そのまとめの報告と意見は大体次のようになる。

- 任期制の積極的意義は、殆んどの人々が認めている。
- 基研の任期性については、大部分が賛成であるが、教授については、ゆるくしても良いのではないかという一部の意見。
- 制度としての任期制はなくとも、実際にはかなり交流が行われている。
- moral obligation ではどうか。
- 地方の場合には、グループの特色を作る必要上、任期制の画一的適用は危険。
- 住宅問題を何とか解決できないか。共同利用研である任期があるという事で、公務員住宅の優先や交代が不可能か。又研究所の住宅を持てないか。
- 他が動かないとやりにくいですが、基研は現状を維持してほしい。

<提案> D.C.を持つ国立大学に於いては、次のような申し合わせをしてはどうか。

- (1) 自分の大学の卒業生を、スタッフとして採用しない。
- (2) 内部昇格を制限する。

このことを、次の研究部員会議で、議論する。任期の切れる研究部員はそれ

について意見を出すこと。と決定。

## 9. 国公立大学間の流動について

国、公、立大学間を転職した場合に、給料の点、恩給、退職金等の問題があるので、自由な交流がさまたげているという意見が、前回の研究部員会議で指摘され具体的な問題点を調べるために、小委員会が結成された。

(中野・町田・川口・高木)

### <小委員会からの報告>

#### (1) 公立・私立→国立

それまでの経験年数が、フルに数えられず、一部分を2/3に数えられたりする事がある。

#### (2) 住居の問題

#### (3) 退職年金及び退職金は、国私立間ではひきつがれない。

英国、米国の例では、国立、私立の大学が同一の共済組合に加入していて、そこに加入している大学間を、移動する場合には、退職年金、退職金は引き継がれる。

これらの問題点を改善してもらうために、学術会議の待遇委員会に主旨を伝える役目をし、又、次の研究部員会議までに、具体的な要望案を検討するための委員会を結成。

(小野・古市・川口)

## 10. 国際交流について (報告・小野)

アンケートをとった結果をまとめた。(資料参照)

これに対して、意見がいくつか出された。

- 政府に大巾な予算要求を行おうではないか。
- Invited lecture をする人、座長になる人に対しては文部省に何人かの枠で金がある。
- 研究者が、自主的にコントロールできる場所が必要。
- 外国人の滞在費と共に、旅費を請求すべき。

— 概算要求で毎年出している —

- サマー・スクールについても、賛否両論がある。

## 資料 1.

### 11. 将来計画関係

高木，小川，安野 3 氏から，素粒子研究所（仮称）その他についての報告が行われ，それについて質問，議論が出された。

（評議会のあり方） （専任の問題）

### 12. その他

#### (イ) 計算センターの件

（小野）今までの機械の 6 倍の能力をもつ 5020-E 運転が最近は非常に混んでいる。

料金 5020-E 200円/min.

5020 100円/min.

41年度のみ，公，私，立は無料

上京して，大型計算機センターを利用する場合，debug runに限り，依頼した計算結果を待たずに受けとる制度がある。

（詳細はセンターの係の者に問い合わせ下さい。）

（田中一）チェック・プログラムが開発盛。

#### (ロ) 基研助教授の人事について。

（湯川）星崎氏が 3 月 1 日付で工学部へ行かれる事になった。後任の性格について議論して頂きたい。

○これについて，若干の意見が出されたが，分野は「広い意味での素粒子論」という傾向であった。

#### (ハ) 秋の物理分科会について

谷川氏より，神戸大学に会場（素・原・宇）が決っているが，生物の方と重なったので，他に考えられないかとの相談が出された。

（文責・議長団）